

令和2年 5月吉日

保護者 各位

沖縄市立越来中学校
校長 長嶺加恵美
(公印省略)

令和2年度 定期テストの廃止について（協力依頼）

うりずんの候、保護者の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素より本校教育へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、令和3年度よりいよいよ新学習指導要領が完全実施となります。

これまでの「生きる力」を継承しつつも、これからの予測困難な社会への対応として、主体的・対話的で深い学び（「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」）を重視した授業改善を進めることが求められます。生徒自らが日々の学びを振り返り、次の学びや社会・生活に生かす力を育む授業、すなわち新たな学びへと進化します。また、今回の改訂の特徴として、評価が現行の4観点から3観点（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力など」）となります。そこで、評価項目のひとつであるこれまで慣行として行われてきた、定期テスト（中間・期末）を見直し、生徒の学習改善や教師の指導改善につながる評価（テスト）をめざして参りたいと考えております（小学校のイメージ、例として小テストや単元テスト、業者テスト等）

尚、具体的な評価（テスト）については、現在職員間で会議を行い起案中でございます。評価計画が完成しましたら、時宜を見合わせ周知したいと思っておりますので、ご理解ご協力のほど宜しくお願いいたします。

【定期テスト廃止の理由について】

- 日常的な学習の習慣化に課題がみられ、学びの連続や指導と評価の一体化という捉えからすると、短期スパン（学習内容の焦点化）でテストを行うほうが望ましい。
- 定期テストのための勉強は、一夜漬けの記憶に頼りがちな側面があった。
- 学期2回の定期テストでは、テスト範囲が広くなり、個によっては、テスト前のテスト勉強では間に合わない、学習に苦手意識のある生徒は、どこから手をつけてよいのかわからなくなるなどモチベーションが下がり、不利な状況も見られた。

【小テストや単元テスト・業者テスト等のメリットについて】

- 単元ごとに定着を図るため、習ったことをその都度理解していく仕組みとなる。
- 単元テスト等なら、学習内容の範囲が狭いので、生徒は集中力が持続できる。
- 定期テストではなかなか点数が取れなかった生徒が、単元テスト等では、短時間で内容が焦点化されているので、内容理解や学習意欲の向上に繋がる。（自己肯定感もアップ）
- 単元テスト等は、適時実施されるので、生徒は授業中ほどよい緊張感と自己学習能力（自己管理）も身につけることができる。
- 入試対策として、狭い範囲の単元テスト等では、生徒の実力や「どの程度達成したのか」などが見えないことから、業者テスト（1～2回程度）実施し、フィードバックやフォローアップにつなげる。

★本件につきましては、2/25学推実践報告会において説明済みですが、改めてお聞きになりたい点がございましたら、学校（校長）までお問合せ下さい。